

News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第33号

発行／大阪大学医学部附属病院広報委員会（総務課）
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載

（この紙面は再生紙を使っています）

住所／〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL／06-6879-5021

元気をあげる

サンリオの人気キャラクター、キティちゃんが入院中の子どもや付き添いのお母さんに元気になってもらおうと、昨年11月14日に阪大病院小児医療センターにふれあい訪問をしてくれました。

サンリオの「ハローキティ、病院・施設応援訪問プロジェクト」で、「辛いとき、がんばらなければならないとき、どんなときも、そばにキティちゃんがいて、ひとりじゃない。一緒にがんばろう」というメッセージを届けるために病院や災害被災地などを訪問しています。

子どもたちは病院ボランティアの方々とプレイルールの飾り付けをしてキティちゃんを迎えました。キティちゃんがプレイルールームに現れると、子どもたちは大

キティちゃん来院！



喜び。順番に歓迎のお花を渡すと、キティちゃんが一人ずつ握手やハグをして、プレゼントを渡してもらおうと、子どもたちの目はきらきらと輝きました。

キティちゃんは重症の子どもたちにもふれあいの時間を持ってくれました。術後、体を動かすことが出来なかった少女がキティちゃんのプレゼントを持とうと少しずつ左手を動かし、右手を振る動作をしました。「良かったね。手が動いたよ…」と主治医や看護師らはびっくり！

キティちゃんの温かい心と大きなパワーを実感させてもらった訪問でした。



糖尿病・メタボステーション開設

糖尿病・メタボリックシンドロームは、全身に血管病を中心とした病気を起こします。重篤な病気に至る前に予防し、進行を防ぐためには関係する診療科と協力しあう必要があるとあります。阪大病院の内分・代謝内科では、患者さんに優しい医療を受けていただくために、さまざまな診療科への線路づくりをすることが大切と考え、「糖尿病・メタボリックステーション」（メタボステーション）を昨年10月1日に開設しました。看護師、技師、栄養士、薬剤師とも連携して診療を行う拠点と考えています。

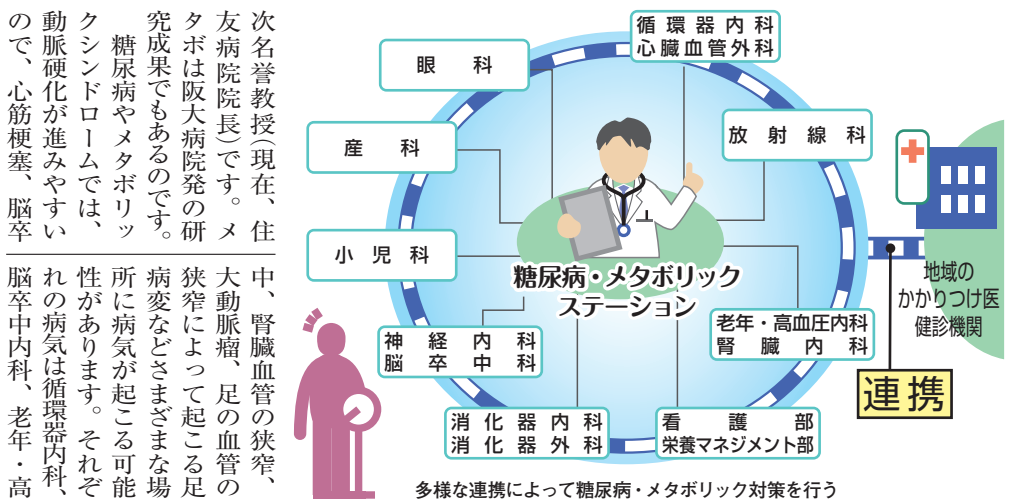
糖尿病・メタボ対策の拠点に

糖尿病とその予備軍は約2210万人との調査結果が昨年末、厚生労働省から発表されました。5年前の前回調査よりも700万人近く増えています。特に心筋梗塞や脳卒中の中に、糖尿病が原因となっており、動脈硬化の病気を防ぐことが糖尿病治療の中で大変重要な時代になってきました。この中で内臓脂肪がたまることによって、血糖が高くなり、高血糖、高血圧や高脂血症も合併するメタボリックシンドロームが問題になっていいます。機械文明の中で運動不足や過剰な栄養、中年以降の生活習慣病の増加など、症状がいろいろと出てくるようになってきました。このように、糖尿病・メタボ対策をとり、健康な生活を送るためには、糖尿病・メタボ対策の拠点にすることが大切です。



健康診断（メタボ健診）が始まっています。まずご自身の血糖、脂質、血圧の状態を知っていただき、できるだけ早く動脈硬化性疾患への対策を行って、突然起こる心筋梗塞や脳卒中から身体を守っていただくという訳です。健診で血圧・血糖・脂

質の異常が二つ以上も重なった中で、内臓脂肪がたまって起こっている人は、少しでも内臓脂肪を減らして血圧・血糖・脂質を良い状態に保ち、予防することが望まれます。胃腸など内臓の周囲にたまった脂肪から生活習慣病を悪化させたり、発症させたりする物質が作られるところから、メタボは内臓脂肪症候群とも呼ばれています。腹囲は内臓脂肪が多いか少ないかを簡単に知るための方法なのです。脂肪細胞で作られるアディポネクチンなどの物質が、内臓脂肪がたまることによって異常が起こることが生活習慣病の原因の一つだということを科学的に明らかにし、メタボの概念を最初に提唱したのは元阪大病院長でもあった松澤佑



血圧内科、腎臓内科、心臓血管外科、放射線科などの専門診療科が診ることになります。症状や必要に応じて超音波によって血管の検査を進めていく必要があるのですが、それは内分・代謝内科の得意とする分野です。また糖尿病では目の病変、腎臓の機能障害、神経障害、足病変も大きな合併症であり、他専門診療科との連携も重要になってきます。足病変では専門看護師によるフットケアが大切で、メタボ対策には内臓脂肪を評価して栄養士による患者さんの食事に対する疑問の解決、サポートが不可欠です。これらを総合的に診療し、必要な場合はその病気を専門とする診療科へと線路をつないで行くのがステーションと話しています。

患者さんの話をよく聞く、患者の意思の尊重、プライバシーへの配慮、病状説明、診断・治療に関する情報提供、手続きの説明、診療態度、接遇態度、言葉遣い、身だしなみ、医療技術、看護ケア、診断・治療機器、待合室、診察室、診察までの待ち時間、食事・食堂、ボランティア、分煙・禁煙対策、トイレ、駐車場、医療費の金額、患者さんの希望に添って普段は身近な、かかりつけ医の先生にかかっていただき、定期的にステーションを活用していただくことも考えています。内分・代謝内科の船橋徹・診療局長は「ステーションから各診療科に線路を渡し、患者さんに安心して医療を受けていただくことが大きな意義です」と、ステーションの必要性を強調します。下村伊一郎科長は「糖尿病・メタボは全身の病気です。逆さまに全身の病気を診療にかかっている方が糖尿病をもっている方が増えています。関係する診療科と協力しあって、患者さんが戸惑わずに診療を目指しています」と話しています。

「外来待ち時間長い」

患者満足度調査を実施

患者満足度調査を昨年7～8月にかけて入院窓口受付と各外来受付の協力を得て入院患者さんを対象に3週間、外来患者さんを対象に1週間実施しました。入院で92%、外来で84%の高い割合で「非常に良かった」もしくは「良かった」と回答がありました。

一方、病院の改善するべき点として多くの項目について指摘がありました。特に、外来の診察待ち時間の長さについては、多くの患者さんから指摘を受けており、重要な改善項目であることを改めて認識させられる結果となりました。

